

地域の中の共生とは ～誰もが安心して暮らせる社会に～

「共生型地域福祉拠点」推進セミナー

社会福祉法人ゆうゆう

社会福祉法人 ゆうゆう

当別町

札幌に隣接する人口1万7千人規模の町
(高齢化率:30%)
北海道医療大学の学生が800人居住

社会福祉法人 ゆうゆう

- 常勤スタッフ 41名(28.9歳)
 - ヘルパースタッフ 80名(24.7歳)
 - 大学生ボランティア登録者 500名
 - NPO法人設立は平成17年(前身は北海道医療大学生ボランティアセンター)
 - 学生ボランティアセンター一期に、学生によるレスパイトサービスを創設
- 障害者総合支援法事業
(日中系・訪問系・居住系)
 - 子育て支援事業、介護予防事業、介護保険対象外生活支援事業、
 - 福祉教育事業
 - 当別町、江別市に15拠点を運営

空き店舗を活用した 大学生によるレスパイトサービスの創設

10年前の当別町

障害児者地域生活支援事業

- 当別町における障害児者社会資源が不足
- H14年より学生任意レスパイトサービス事業の設立（1時間400円）
 - 初年度実績年間 46名 → 信頼がない
 - 2年目実績 122名 → 信頼感の確立
 - 3年目実績 512名 → 自信と確信
- 平成17年度NPO法人設立事業化（支援費制度）
- 4年目実績：約 5,000名



エンパワメントの視点と環境整備

障がい者や高齢者の暮らしを支えるにあたっての大切な理念

エンパワメントという単語そのものは「能力をつける」「権限を与える」という意味である。

ただし、従来の様々な考え方の枠組みが、障害者の「能力」や「権限」を訓練や指導によって後から付加されるものとしてみなしてきたのに対してエンパワメントという考え方は、

「障害者には本来ひとりの人間として高い能力が備わっているのであり、問題は社会的に抑圧されてきたそれをどのように引き出して開花させるかにある」

と考えるのである。

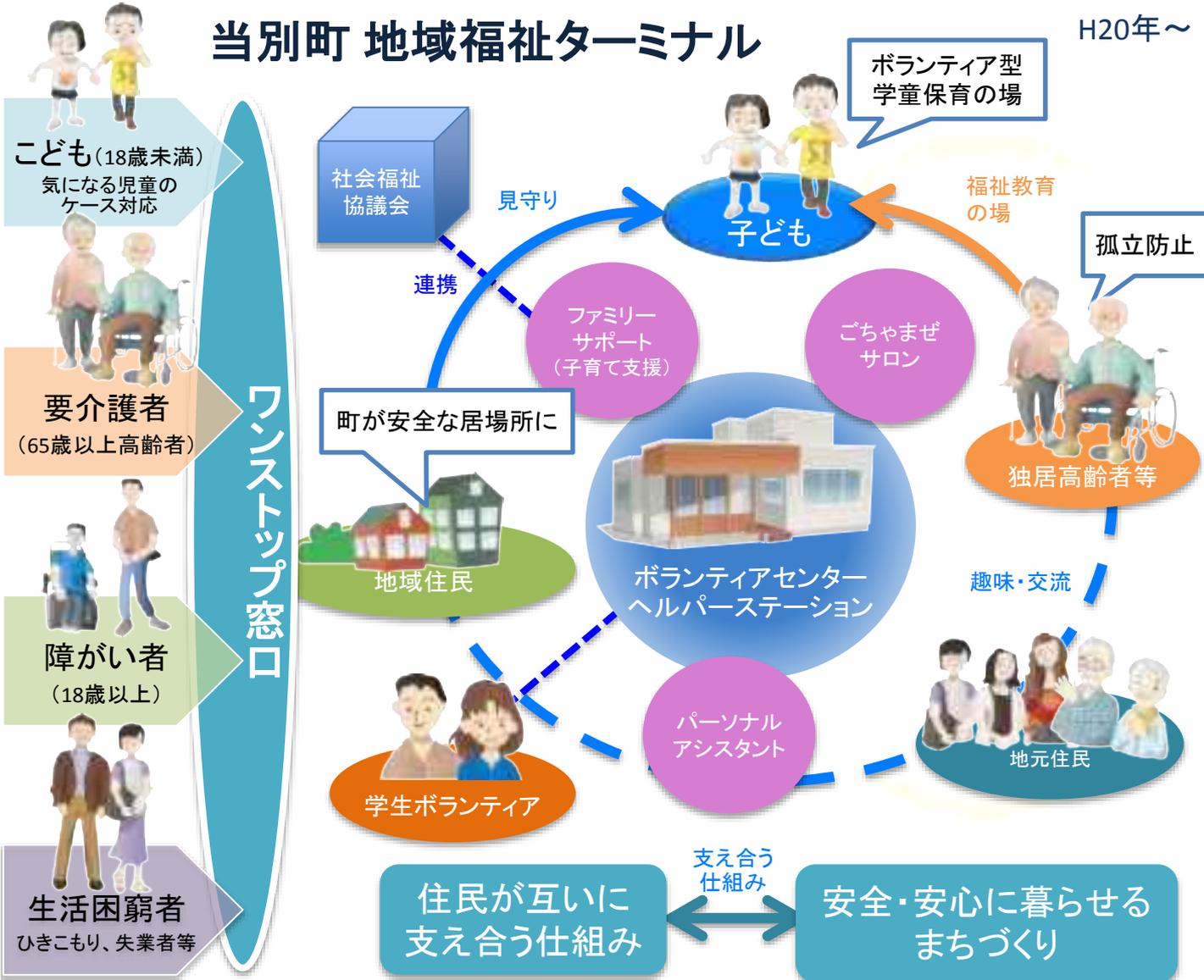
当別町地域福祉ターミナル

ターミナルって
こんなところ♪



当別町 地域福祉ターミナル

H20年～



◎子育て支援の仕組みづくり／育児の援助を受けたい方と育児の手助けができる方が、地域の中でお互いに育児を支え合う会員組織「ファミリーサポート」を作り続けて運営し、地域の子育てを応援しています。



◎高齢者の介護予防支援／子供～高齢者まで世代を超え障がいの有無を超え交流する場「ごちゃまぜサロン」。町民が自ら運営する地域活動で、孤立高齢者の地域との接点、生きがいづくり、介護予防にもなっています。



◎住民相互の生活支援／公的制度ではカバーできない通勤や買物支援等を行う有償ボランティア制度「パーソナルアシスタント」を創設。ヘルパー3級程度のカリキュラムを設け、地域の支え合う仕組み作りに取り組んでいます。

- ・ボランティア情報を一元管理、地域福祉を支え推進する。
- ・子ども達から一人暮らし高齢者まで地域交流の場を提供する。
- ・住民が互いに支え合う仕組みづくりを通して地域を活性化する。







新しい概念にチャレンジする。

既成概念にとらわれない、

**時代が必要としていることを
現場で感じる。**

**突き詰めて、突き詰めて、
議論する。**



ないものはつくる。

社会的な仕組みや制度を言い訳にしない。

制度はあとからついてくる。



地域共生型パーソナルアシスタント

制度外のサービスに応えるための住民が住民をサポートする仕組み作り

当別町オリジナルの養成講座

27.5時間の講習+実習

- 養成講座会員者数 80名

20代の学生から60代の団塊の世代まで

- 講習

子どもから高齢者、障がいの有無に関わらず、幅広い範囲の知識を身につけられる内容

- 実習

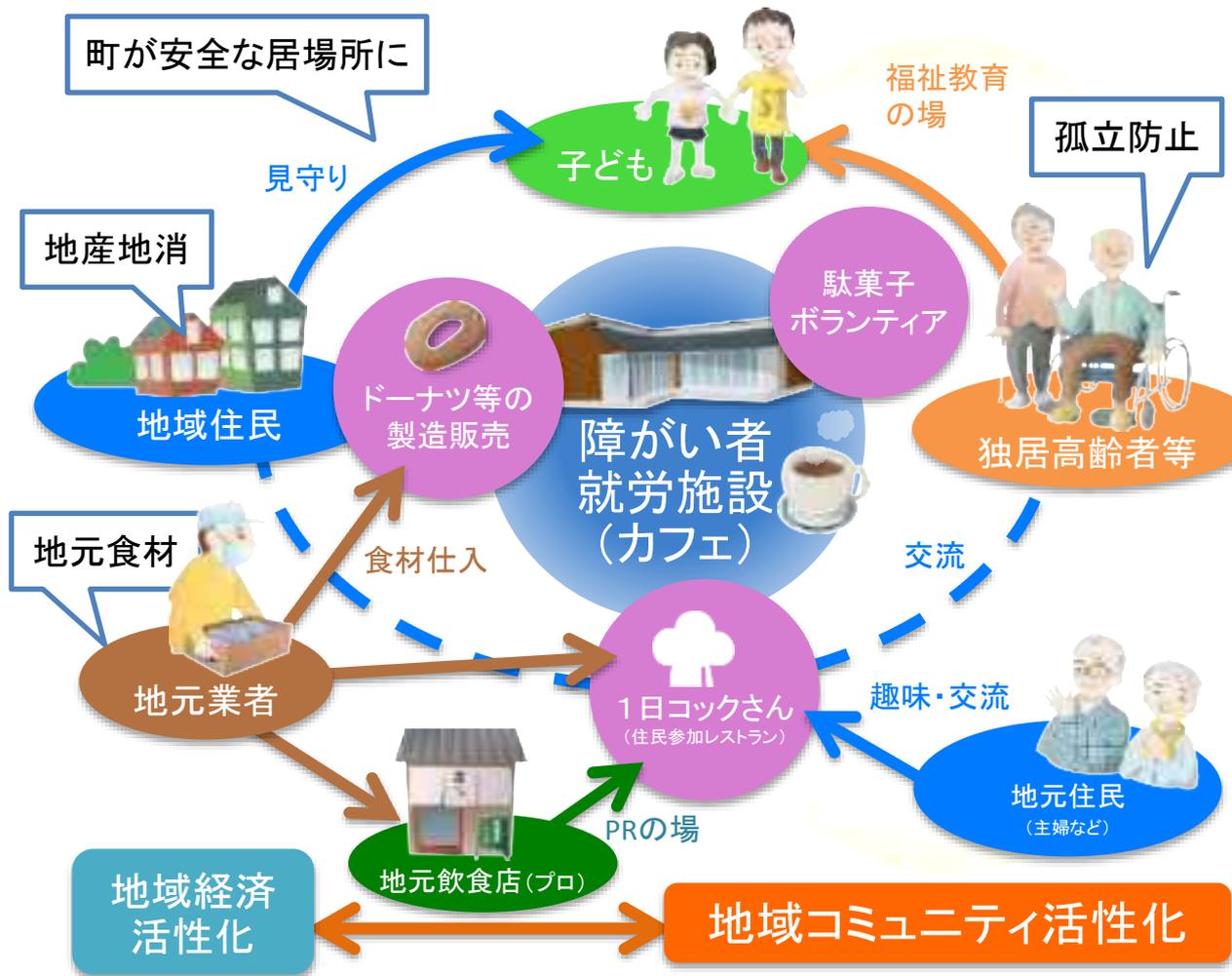
これから実際に関わるであろう方たちと触れ、体験し、講義内容の理解が一段と増した様子。



共生型地域オープンサロン
Garden



障害者就労支援事業による子どもの安心と高齢者の介護予防拠点及び地域経済活性化創出事業（北海道当別町）



◎1日コックさん／日単位の施設貸し出し。主婦を始めプロ料飲店や商売を始めようとする方々などが様々に利用できると同時に、障がい者の理解交流の場となる。



◎駄菓子ボランティア／値札付け、買い物に来た子供との交流、レジでの計算などを通じて介護予防や生きがい、活力の創出などにつながっている。

- ・障がい者就労施設であるコミュニティカフェを中心とした地域活性化の仕組み。
- ・一人暮らし高齢者、子ども達も巻き込んで地域交流の場となる。
- ・地元食材を使った食産業が促進されることで、地域経済も活性化。

介護予防ボランティア活動 オープンサロン駄菓子ボランティア

【活動内容】

- ・駄菓子屋さんのお店ばん
- ・子どもの遊び相手、話し相手
- ・障がいのあるスタッフの就労補助
- ・お店の飾りつけなど

【ボランティア】

- ・登録総数……………25名
- ・うち65歳以上… 23名
- ・平均年齢……………71.5歳

子どもたちの集まる放課後の時間から活動。
お店ばんをしながら子どもたちとの交流を楽しんだり、
ときには社会のマナーを教えることも。





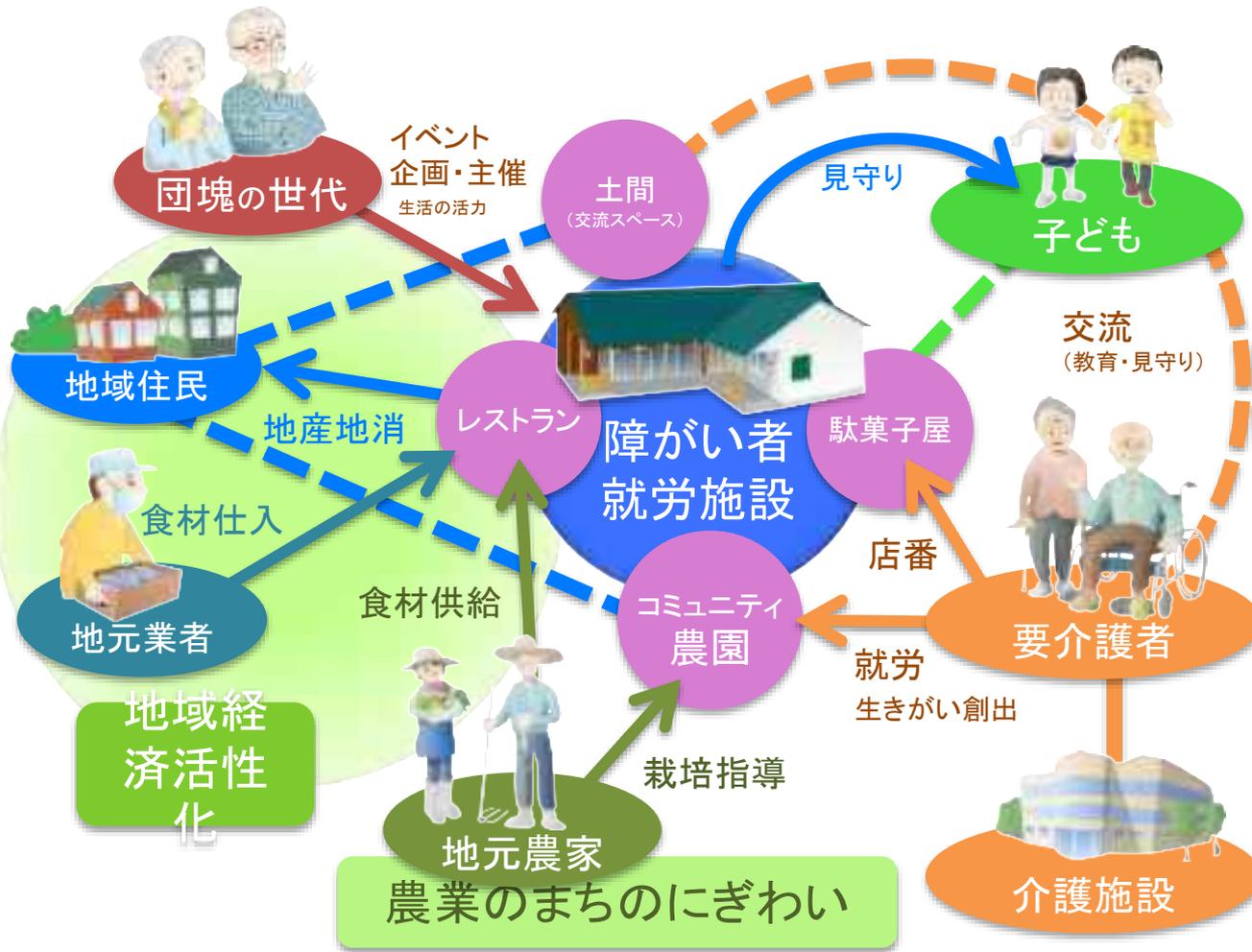
共生型コミュニティ農園

「ぺこぺこのはたけ」





障害者就労支援事業による農業のまちづくり推進と 新たな住民の雇用と生きがい創出事業（北海道当別町）



◎ 団塊の世代 / 畑やレストラン、交流スペースを利用し、地域イベントの企画開催を、豊富な経験を活かし指導的に行うことでリタイア後の人生活力になっている。



◎ 要介護者 / 要介護状態にある高齢者が畑で農家経験を発揮し就労している。交流スペースでは世代を越えた交流により、生きがいと介護予防を創出している。

当別町の基幹産業である農業を通じて、子どもから高齢者まで、障害者、学生など、あらゆる地域住民が集い、活動することのできる交流拠点となると共に、地産地消を促し経済も活性化。

「ぺこぺこのはたけ」の可能性

イトさん92歳の農作業 私らしくありたい

92歳女性

要介護2 認知症

幻視が見える。

長年畑しごとをしていたので、
自宅での畑づくりは生きがい。

2011年夏、炎天下で休まず畑
仕事をして、脱水症状で倒れ、
救急搬送、入院加療。

家族は、畑仕事は引退して
ほしかった。

2012年、見守りの元、ぺこぺこ
の畑での秋大根を育てる。

2週に1回のペースで8月から
11月の収穫まで畑に通う。

この間、幻視はなし。

家族→「人に頼られると嬉しい
のかもしれない」と、畑仕事が
認知症の周辺症状改善



認知症による幻視があり、
畑仕事は止めていた。

でもやっぱり、土を見ると…



役に立つか
分かりませんが、
やってみますよ。





次は何を
まこうか
ね？



地域の実際例②：「地域共生型拠点を活用した、あらゆる住民の担い手創出事業」（北海道石狩郡当別町）

共生型地域オープンサロン



- ・障がい者の就労拠点(喫茶店)
- ・高齢者の介護予防ボランティア
- ・子どもたちの学び・遊ぶ場



◎障がい者就労

- 多様な障がい者就労の場
- 同時に、子どもたちの障がい者理解の場



◎介護予防ボランティア

- お菓子屋で預け付けなどをしながら、子どもや障がい者と交流・遊ばす
- 高齢者に介護予防・生きがい創出



◎体験型学習保育

- 子どもたちによるお菓子作りやカフェ店員などの体験など

共生型地域福祉ターミナル



- ・総合ボランティア拠点
- ・インフォーマルサービスのワンストップ拠点
- ・地域の日常的な世代間交流スペース



◎特技を生かした社会貢献

- 高齢者と子どもが囲碁を通じて心を通わす
- 子どもも高齢者の生きがいを高めて活躍



◎子育て支援

- 育児支援を受けたい方と育児の手助けができる地域住民が会員組織を結成
- 地域互助で育児を文交合い



◎住民相互の生活支援

- 移動手段の確保など、公的制度ではカバーできない分野で活躍するボランティア
- 独自の養成カリキュラムを設け、地域で支え合う仕組みづくり

共生型コミュニティ農園



- ・障がい者の就労拠点(レストラン)
- ・高齢者の就労拠点(農園)
- ・男性団塊世代など多世代交流拠点



◎障がい者就労

- 個々の障がい者の得意分野に応じた就労の取組
- 飲食業の研修によるレストラン経営(企業参画型)



◎認知症高齢者の活躍

- 要介護の認知症高齢者が農業経験を発揮
- 地元農家による監督(農産連携)



◎団塊世代の活躍

- 団塊世代の高齢者が若い世代を巻き込んだイベントを企画し、リタイア後の人生活力に
- 畑やレストランを利用したパーティーで地域活力の向上